

2026年度わが国貿易収支、経常収支の見通し ～貿易収支が6年ぶりに黒字に転じる～

I. 要旨

1. 商品別貿易の見通し(通関ベース)

● 2025年度～輸出の増加が続くが貿易赤字からは脱せず

輸出総額は、2024年度比0.4%増の109兆4,290億円とほぼ横ばいながら5年連続で増加する。米国の関税措置の影響などのため輸送用機器が減少するが、AI・データセンター関連の需要の増加を追い風に電気機器や一般機械は増加する。内訳は、輸出数量が2024年度比横ばい、輸出価格は同0.4%の上昇になる。

輸入総額は、2024年度比3.0%減の110兆8,500億円になる。原油などのエネルギー価格が下落する影響が大きく、2年ぶりの減少になる。内訳は、輸入数量が2024年度比2.8%の増加、輸入価格は同5.6%の下落になる。

通関貿易収支は1兆4,210億円の赤字と、2021年度以来5年連続の赤字になる。

● 2026年度～6年ぶりに貿易収支が黒字に転じる

輸出総額は、2025年度比2.4%増の112兆830億円になる。電気機器と一般機械の増加が続き、また、2025年度に減少した輸送用機器はほぼ横ばいながら増加に転じる。内訳は、輸出数量が2025年度比0.8%の増加、輸出価格は同1.6%の上昇になる。

輸入総額は、2025年度比0.6%減の110兆1,860億円になり、2025年度に続き減少する。エネルギー価格の低下に伴い、鉱物性燃料が4年連続で減少する。内訳は、輸入数量が2025年度比1.5%の増加、輸入価格は同2.1%の低下になる。

通関貿易収支は1兆8,960億円の黒字と、6年ぶりの黒字に転じる。

2. 経常収支の見通し

● 2025年度～経常収支の黒字額が30兆円台に達する

経常収支は、32兆1,220億円の黒字になる。このうち、貿易・サービス収支は、サービス収支のうち旅行収支が高水準の黒字を維持するが、いわゆるデジタル関連収支の赤字が拡大することなどにより、3兆4,440億円の赤字になる。第一次所得収支は、直接投資収益と証券投資収益がともに増え、40兆7,960億円の黒字になる。第二次所得収支は5兆2,300億円の赤字を見込む。

● 2026年度～貿易収支の黒字転化を主因に4年連続で史上最高額を更新

経常収支は、32兆8,450億円の黒字になる。このうち、貿易・サービス収支は、貿易収支の黒字転化を主因に、4,180億円に赤字が縮小する。第一次所得収支は38兆1,040億円と高水準の黒字が続く。第二次所得収支は4兆8,410億円の赤字と予測する。

II. 総 括 表

【 通 関 貿 易 】

	2024年度 実績		2025年度 見込み		2026年度 見通し	
	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)
通関貿易収支	▲ 5,352	+791	▲ 1,421	+3,930	1,896	+3,318
輸出	108,939	(5.9%)	109,429	(0.4%)	112,083	(2.4%)
数量要因		-2.4%		0.0%		0.8%
価格要因		8.5%		0.4%		1.6%
輸入	114,291	(4.8%)	110,850	(-3.0%)	110,186	(-0.6%)
数量要因		-0.3%		2.8%		1.5%
価格要因		5.0%		-5.6%		-2.1%

【 経 常 収 支 】

	2024年度 実績		2025年度 見込み		2026年度 見通し	
	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)
貿易・サービス収支	▲ 6,575	+342	▲ 3,444	+3,131	▲ 418	+3,027
貿易収支	▲ 4,013	-326	▲ 205	+3,808	3,025	+3,230
輸出	106,270	(4.1%)	106,783	(0.5%)	109,372	(2.4%)
輸入	110,283	(4.3%)	106,988	(-3.0%)	106,347	(-0.6%)
サービス収支	▲ 2,562	+669	▲ 3,239	-677	▲ 3,443	-204
第一次所得収支	40,826	+3,448	40,796	-29	38,104	-2,693
第二次所得収支	▲ 4,701	-446	▲ 5,230	-529	▲ 4,841	+389
経常収支	29,549	+3,344	32,122	+2,572	32,845	+723

(注)金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

【 前 提 条 件 】

	2024	2025	2026
世界貿易 (暦年)	2.8 %	3.3 %	2.1 %
世界経済 (暦年・実質)	3.3 %	3.1 %	3.0 %
米国	2.8 %	2.0 %	1.8 %
ユーロ圏	0.9 %	1.2 %	1.1 %
アジア新興国市場及び途上国・地域	5.3 %	5.1 %	4.7 %
日本経済 (年度・実質)	0.8 %	0.9 %	0.7 %

(注1) アジア新興国市場及び途上国・地域はIMF定義によるEmerging and Developing Asia。

(注2) 上記の前提条件に加え、11月中旬の外国為替市場及び原油市場の動向を参考に、円相場は2025年度147円/ドル、2026年度144円/ドル。原油入着価格は2025年度69ドル/バレル、2026年度63ドル/バレルとの前提条件をおいて積み上げ作業を実施。

III. 今回見通しのポイント

通関貿易収支は、2025 年度は 1 兆 4,210 億円の赤字と 2021 年度以来の赤字が続くが、2026 年度は 1 兆 8,960 億円の黒字になり 6 年ぶりに黒字に転じると予測する。当会の見通しは、専門委員会参加 7 商社による社内外のヒアリング等に基づく、商品別の見通しを積み上げて作成している。今回の見通しでは、①輸送用機器の輸出額が 2025 年度に減少するが、②鉱物性燃料の輸入額の減少が続き、そして、③電気機器や一般機械の輸出額が増加することが、2026 年度に 6 年ぶりの貿易黒字に転じるとの予測の主因になった。

①輸送用機器の輸出額の減少は、言うまでもなく、米国の関税措置の影響が大きい。また、ASEANにおいて中国メーカーとの競争が激しくなっており、自動車の部分品の輸出に響く見通しだ。ただし、2026 年度になると、日米合意の成果などにより、輸送用機器の輸出額は 2025 年度比でほぼ横ばいになると予測する。

②鉱物性燃料の輸入額の減少は、グローバルなエネルギー情勢の変化を背景に、エネルギー価格が下落する影響が大きい。加えて、日本の人口減少や様々な効率改善の成果である原単位の低下、さらに原子力発電所の再稼働などのため、原油及び粗油や LNG の輸入数量も減少する見通しだ。また、世界的な電力需要増を背景にガス火力発電所の建設が活発化しており、一般機械に含まれる原動機の輸出額が増加している。

③電気機器や一般機械の貿易額は、グローバルな AI・データセンター関連の需要の拡大に伴い世界的に増加している。日本では、特に電気機器に含まれる半導体等電子部品、また一般機械に含まれる半導体等製造装置の輸出額が増加している。輸入額も同様に増加しており、電気機器ではスマートフォンを中心とする通信機、一般機械ではパソコンコンピュータなどの電算機類の増加が続いている。また、一般機械に含まれる原動機の輸出額の増加も加わり、電気機器と一般機械を合わせた輸出額の増加幅が輸入額の増加幅を上回る見通しだ。また、電気機器は 2025 年度に 2022 年度以来 3 年間続いた輸入超過から輸出超過に転じると見込む。

貿易収支の赤字が 2025 年度に縮小、さらに 2026 年度は黒字に転化することを主因に、経常収支の黒字額は、2025 年度が 32 兆 1,220 億円、2026 年度は 32 兆 8,450 億円になり、4 年連続で史上最高額を更新すると予測する。一方で、サービス収支は、旅行収支が高水準の黒字を維持しつつも 2025 年度に 3 年ぶりの赤字拡大に転じ、また、第一次所得収支も同様に高水準ながら 5 年ぶりに黒字拡大に歯止めが掛かる見込みだ。米国の関税措置にもかかわらず、貿易収支を主因に経常収支の黒字拡大が続く見通しであることは、特筆に値しよう。

IV.主要商品別の見通し(通関ベース)

1. 輸出

◆◆◆2025年度◆◆◆

主要商品別に見ると、金額が大きい輸送用機器が2024年度比5.4%の減少になる。このうち、自動車と自動車の部分品は米国の関税措置の影響やASEANにおける中国メーカーとの競争激化を主因に減少する。一方で、船舶は増加するが大型化に伴い輸出隻数は2024年度を下回る。化学製品は同2.6%の減少になる。中国の生産能力拡大の影響が大きく、半導体向けや化粧品などの増加で補いきれない。原料別製品では、鉄鋼が中国からの輸出増加による市況悪化などの影響で2桁減となる影響が大きく、同4.0%の減少になる。鉱物性燃料は上半期に国内製油所の定修などにより輸出余力が低下したため同3.0%の減少になる。

一般機械は2024年度比0.3%の増加とほぼ横ばい。このうち、原動機はガス火力発電所向けのタービンが伸び航空機エンジンも増え、半導体等製造装置は台湾向けや韓国向けが増加するが、原動機では自動車エンジン、半導体等製造装置では中国向けが低調。

電気機器は2024年度比4.7%の増加になる。半導体等電子部品がAI・データセンター関連やパーソナルコンピュータ及びスマートフォン向けが伸び増加する。食料品は欧州向けやアジア向けを中心に価格上昇を主因に同7.2%の増加になる。原料品は東南アジア向け鉄スクラップの増加や銅スクラップの価格上昇により同2.9%の増加になる。その他は、半導体関連を中心とする科学光学機器の増加に加えて、金の価格上昇などにより、同9.1%の増加になる。

これらを合計すると、2025年度の輸出総額は2024年度比0.4%の増加になる見込み。内訳は、輸出数量が横ばい、輸出価格は同0.4%の上昇になる。

◆◆◆2026年度◆◆◆

電気機器が2025年度比6.6%の増加に伸びを高める。引き続き、AI・データセンター関連をけん引役に半導体等電子部品などが増加することが主因。一般機械も同5.0%の増加になる。半導体等製造装置やガス火力発電所向けを中心とする原動機の増加が続く。食料品は日本政府が目指す農林水産物・食品の輸出額2030年5兆円の目標を追い風に同2.3%の増加になる。その他では、科学光学機器の半導体関連や医療検査関連の増加が続くが、金の価格上昇の鈍化などのため、同3.2%の増加に伸びが緩やかになる。

輸送用機器は2025年度比0.2%の増加とほぼ横ばいになる。自動車では米国の関税措置の影響が

薄れるが、自動車の部分品では ASEAN における中国メーカーとの競合激化の影響などが続く。原料別製品も同 0.1% 増とほぼ横ばい。鉄鋼の減少は中国における生産抑制策などにより歯止めが掛かる。非鉄金属は 2025 年度の反動でアルミニウムが減少するが底堅い銅需要が下支えになる。また、原料品は韓国向け鉄スクラップの低迷など 2025 年度とほぼ変わらず同 0.3% の減少になる。

化学製品は引き続き中国の生産能力の拡大が有機化合物やプラスチックに響き 2025 年度比 1.7% の減少になる。鉱物性燃料は世界的な石油製品需要の低下トレンドに加えて中国を中心とする石油精製能力の増加などの影響で同 7.3% の減少になる。

これらを合計した 2026 年度の輸出総額は 2025 年度比 2.4% の増加になる見通し。内訳は、輸出数量が同 0.8% の増加、輸出価格は同 1.6% の上昇になる。

2. 輸 入

◆◆◆2025 年度◆◆◆

鉱物性燃料が 2024 年度比 17.3% と大きく減少する。エネルギー価格の下落に加えて、日本の人口減少や様々な効率の改善による原単位の低下、さらに原子力発電所の再稼働などのため、原油及び粗油や LNG が減少する。また、石油製品は供給懸念により海外市況が高騰したため輸入採算が悪化した。石炭では、原料炭が国内粗鋼生産の減少、一般炭も供給懸念が薄れ価格が低下したため減少する。化学製品は同 2.3% の減少になる。4 割超を占める医薬品は高齢化に伴う需要増などのため増加傾向にあるが一部高額医薬品が増加した反動や一部医薬品の国内供給懸念の解消などにより 2025 年度は減少する。また、有機化合物やプラスチックは国内需要が伸びず増えにくい。食料品は同 3.2% の減少になる。消費者の節約志向の高まりで魚介類の数量が減り、加えて肉類では海外飼育頭数の減少による価格の上昇のため輸入数量が増えない。原料品は同 4.8% の減少になる。鉄鉱石は価格の低下が響き、非鉄金属鉱では多くを占める銅鉱の数量が精錬所の定修のため減少する。

電気機器は 2024 年度比 1.9% の増加になる。スマートフォンの買い替え需要が伸びる通信機が増え、重電機器の需要が鉄鋼業を中心に国内製造業全般向けに増えている。半導体等電子部品は産業機器や車載向けの在庫調整が進みほぼ横ばいになる。一般機械は同 4.9% の増加になる。特に電算機類は学校端末の更新やパーソナルコンピュータのオペレーティングシステム(OS)更新が需要を高める。原料別製品は同 5.3% の増加になる。非鉄金属が価格上昇を主因に増加するが、鉄鋼は国内需要が力強さを欠き減少。織物用糸・纖維製品は数量はほぼ横ばいだが価格低下のため減少する。輸送用機器は、政策効果を一因に EV を中心とした自動車が増え、また航空機類も納入時期の変更を伴いつつも増える

ことから、同 7.7%の増加になる。

その他では、衣類・同附属品の数量が増え、金が価格上昇により増加するが、雑貨類を含む多くの品目で内需に高揚感はなく、2024 年度比 0.9%の増加とほぼ横ばいになる。

これらを合計した 2025 年度の輸入総額は 2024 年度比 3.0%の減少になる見込み。内訳は、輸入数量が同 2.8%の増加、輸入価格は同 5.6%の下落になる。

◆◆◆2026 年度◆◆◆

鉱物性燃料が引き続き 2025 年度比 4.5%の減少になる。原油及び粗油や LNG の価格低下の影響が大きい。一方で、石油製品では市況高騰が正常化に向かい輸入余地が生まれる。LPG は数量減の一方で市況の反発により価格が上昇するため増加する。原料別製品は同 4.1%の減少に転じる。2025 年度の増加をけん引した非鉄金属がアルミニウムの価格低下及び需要減により減少する。食料品は同 5.0%の減少が続く。国内需要の回復が鈍く、また海外産地で供給の増加が見込めず価格が高止まりするため輸入の競争力が高まらない。その他は、需要に高揚感を欠いたまま価格の低下傾向が強まるため、同 1.0%の減少になる。

一般機械は、電算機類の輸入増加を支えた学校端末や OS 更新需要の一巡のため、横ばいになる。化学製品も 2025 年度比 0.9%の増加とほぼ横ばいになる見通し。医薬品が中長期的な増加傾向に沿い持ち直す。

電気機器は 2025 年度比 4.9%の増加に伸びが高まる。通信機はスマートフォンの買い替え需要に加えてデータセンター向けのネットワーク機器が増える。また、重電機器の製造業向け需要の増加も続く。原料品は同 3.1%の増加に転じる。鉄鉱石は減少が続くが、非鉄金属鉱のうち銅鉱が精錬所の定修の影響が薄れるため増加する。輸送用機器は、自動車と航空機類とともに 2025 年度と同様の傾向が続き、同 1.5%の増加になる。

これらを合計すると、2026 年度の輸入総額は 2025 年度比 0.6%の減少とほぼ横ばいになる見通し。内訳は、輸入数量が同 1.5%の増加、輸入価格は同 2.1%の低下になる。

V. 経常収支の見通し

◆◆◆2025 年度◆◆◆

経常収支は 32 兆 1,220 億円の黒字になり 3 年連続で史上最高額を更新する。このうち貿易・サービス

収支は、貿易収支が 2,050 億円の赤字、サービス収支が 3 兆 2,390 億円の赤字になるため、3 兆 4,440 億円の赤字になる。サービス収支のうち、旅行収支は高水準の黒字を持続するが、訪日外国人旅行者の増加ペースの鈍化や日本人の海外旅行時の支出増加等により伸び悩む。また、いわゆるデジタル関連収支の赤字拡大などにより、3 年ぶりに赤字が拡大する。

第一次所得収支は 40 兆 7,960 億円になる。円高のため外貨建ての収益が目減りするが、対外債権の積み上がりに伴う収益の増加や直接投資収益の拡大で埋め合わせ、2024 年度比でほぼ横ばいになる。第二次所得収支は 5 兆 2,300 億円の赤字になる。再保険料などの支払い増加による赤字拡大トレンドが継続する。

◆◇◆2026 年度◆◇◆

経常収支は 32 兆 8,450 億円の黒字になり 4 年連続で史上最高額を更新する。このうち、貿易収支が 3 兆 250 億円の黒字に転化するため、貿易・サービス収支は 4,180 億円に赤字が縮小する。一方でサービス収支は 3 兆 4,430 億円に赤字が拡大する。旅行収支は高水準の黒字が続くが日本人海外旅行者の増加などのため黒字額が縮小。また、研究開発活動の海外委託の増加なども赤字拡大に寄与する。

第一次所得収支は 38 兆 1,040 億円と高水準ながら黒字額が縮小する。円高による外貨建て収益の目減りに加えて、米国の関税措置を一因に直接投資収益が伸び悩み、また主要国の金利低下などのため証券投資収益も頭打ちになると予測した。第二次所得収支は 4 兆 8,410 億円の赤字になる。

以 上

商品別見通し(輸出)

品目	2024年度 (実績)	2025年度 (見込み)				2026年度 (見通し)				コメント	
		上半期		下半期		2025年度		2026年度			
		10億円	伸び率%	(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%	10億円	伸び率%		
総額	108,939	+5.9%	53,653	+0.2%	55,776	+0.7%	109,429	+0.4%	↑ 112,083	+2.4%	米国の関税措置の影響などのため輸送用機器は減少するが、AI・データセンター関連の需要増などによる電気機器や一般機械の増加が補い、輸出総額はほぼ横ばいを確保する。中国经济の減速の影響が鉄鋼や化学製品の減少にみられる。
EX 01 食料品	1,231	+9.4%	675	+18.2%	645	▲2.4%	1,320	+7.2%	↑ 1,350	+2.3%	ホタテを中心に供給減少により価格は上昇。数量は米国の関税措置の影響で米国向けが減少する一方、欧州、台湾、香港向けが増加する見込み。
EX 02 原料品	1,781	+7.2%	909	+3.2%	924	+2.6%	1,833	+2.9%	→ 1,827	▲0.3%	最も金額の大きい品目である金属鉱及びくずについて、インフラ整備による需要増で東南アジア向けの鉄スクラップが増加している一方、最大仕向け地である韓国向けは韓国国内の低調な経済成長、自給率上昇により大幅に減少。他方、銅スクラップの価格上昇、数量増加が続いている、他の品目のマイナス分も上回り、原料品全体で増加となる見込み。
EX 03 鉱物性燃料	1,279	▲14.0%	540	▲8.0%	700	+1.3%	1,240	▲3.0%	↓ 1,150	▲7.3%	下半期に関しては国内製油所の定修終了や、海外製品価格の上昇により、国内の輸出余力は24年度対比増加する見込み。
EX 04 化学製品	11,998	+7.3%	5,778	▲3.2%	5,906	▲2.0%	11,684	▲2.6%	↓ 11,485	▲1.7%	有機化合物やプラスチックは中国の生産能力拡大の影響で数量の減少と価格の低下が避けられない。化粧品類は落ち込みに歯止めが掛かったが先行きは楽観できない。半導体関連はAI・サーバー関連を中心に好調が続く。高付加価値品の割合の増加が価格を下支えるが、有機化合物やプラスチックの減少を補うには至らない。
EX 05 原料別製品	12,039	+3.1%	5,782	▲6.2%	5,773	▲1.7%	11,555	▲4.0%	→ 11,563	+0.1%	下半期の原料別製品の輸出金額は、上半期に減少した流れを引き継いで横ばい圏を推移するため、25年度通年では24年度から減少する見込み。非鉄金属が24年度から小幅に増加し、織物用糸及び繊維製品が横ばいとなる一方で、鉄鋼が減少する。
鉄鋼	4,342	▲3.7%	1,918	▲15.1%	1,905	▲8.5%	3,823	▲12.0%	→ 3,858	+0.9%	中国経済の低迷や中国からの輸出の増加、米国の関税措置などの影響によって、上半期に減少した影響が継続し、下半期の数量・価格ともに上半期からおむね横ばい圏を推移する。そのため、25年度通年の金額は24年度から減少する見込み。
非鉄金属	2,747	+11.3%	1,397	▲1.3%	1,390	+4.5%	2,788	+1.5%	↓ 2,759	▲1.0%	下半期にアジアなど海外需要の底堅さからアルミニウムの輸出量が増加するのに対して、銅製品では上半期から伸び悩む。価格は需給動向などから高止まりする中で、非鉄金属の金額は下半期にかけて減速するものの、24年度の水準を上回るため、25年度通年では小幅に増加する見込み。
織物用糸・繊維製品	850	+6.0%	417	▲0.9%	431	0.2%	847	▲0.3%	→ 846	▲0.1%	価格は、原料価格やエネルギー価格、人件費の上昇などにより緩やかな上昇傾向。数量は、高付加価値品は堅調なもの、中国・ASEAN向けが消費鈍化・現地調達の拡大により弱含んでおり、やや減少傾向。全体として、金額は24年度からおむね横ばいとなる見込み。
EX 06 一般機械	19,475	+4.5%	9,631	+1.3%	9,900	▲0.6%	19,531	+0.3%	↑ 20,500	+5.0%	原動機では世界的な電力需要増を受けて主にガス火力発電所向けガスタービンコンバインドサイクル(GTCC)設備などが好調、また、航空機エンジンも堅調の一一方、自動車エンジン及びその部分品が伸び悩み。半導体等製造装置は小幅増。
原動機	2,954	+0.4%	1,483	+2.6%	1,550	+2.8%	3,033	+2.7%	↑ 3,100	+2.2%	自動車の電動化進展もあり自動車エンジン及び部分品の輸出が伸び悩む一方、世界的なガス火力発電所の建設ラッシュでガスタービンコンバインドサイクル(GTCC)設備の受注好調で、発電用ガスタービンの輸出が大幅増、また、堅調な航空機需要を受けた航空機エンジンの輸出も増加。
半導体等製造装置	4,642	+27.0%	2,178	▲2.2%	2,548	+5.5%	4,726	+1.8%	↑ 5,151	+9.0%	中国向け輸出に一服感がみられた一方で、台湾や韓国向けが増加した上半期まで動向が下半期にも継続する。高付加価値化などを背景に価格が上昇傾向にあるため、輸出額は24年度から小幅に増加する見込み。
EX 07 電気機器	18,068	+5.8%	9,140	+0.9%	9,782	+8.5%	18,922	+4.7%	↑ 20,179	+6.6%	25年度の電気機器の輸出金額は増加となる見込み。上半期は横ばいにとどまつたものの、下半期はデータセンター向けなどを中心とした半導体等電子部品増加により、電気機器全体も増加となる見込み。
半導体等電子部品	6,154	+9.8%	3,248	+4.2%	3,363	+10.7%	6,611	+7.4%	↑ 7,110	+7.5%	AI関連のデータセンター向け需要は強く、引き続き投資拡大が見込まれる。加えてPCやスマートフォンの買い替え促進による需要回復が見込まれ、金額、数量ともに24年度から増加の見込み。
電気計測機器	2,035	+6.8%	1,014	+1.7%	1,033	▲0.4%	2,048	+0.6%	↑ 2,197	+7.3%	輸出金額は横ばいとなる見込み。上半期はグローバル景気の底堅さを背景に小幅な増加となつたものの、下半期は米中の景気減速を受けて輸出数量は伸び悩み。輸出価格は、円安修正の影響で下落の見込み。
EX 08 輸送用機器	25,002	+2.1%	11,575	▲5.9%	12,067	▲5.0%	23,641	▲5.4%	→ 23,689	+0.2%	船舶は微増ながら、米国関税措置を受けた同国向け自動車輸出価格の低下、現地生産比率の高いASEANでの中国車との競合による部品類の減少から、輸送機器全体として減少。
自動車	18,326	+2.5%	8,376	▲6.7%	8,835	▲5.5%	17,211	▲6.1%	→ 17,382	+1.0%	数量は24年度比横ばいも、米国向け価格低下の影響で金額は減少。米国は年初は追加関税適用前の駆け込み輸入があつたが、5月頃から24年度比減少傾向。価格は関税低下に応じ下半期から上昇見込み。他地域では、欧州はHEVを中心に下半期に販売回復の兆し。ASEANで中国車との競合激化。半導体の供給制約は全体的に下ブレリスク。
自動車の部分品	3,938	▲2.4%	1,820	▲9.1%	1,877	▲3.0%	3,697	▲6.1%	↓ 3,602	▲2.6%	米国向け減少。及び現地生産比率の高いASEANでは、25年度後半に複数新モデル投入など部分的増加要因はあるものの、中国車との競合が激化している影響、加えて円高傾向で、24年度比減少。
船舶	1,558	+11.8%	768	▲0.1%	809	+2.6%	1,577	+1.3%	→ 1,566	▲0.7%	新造鋼船の25年度輸出予定隻数は24年度を下回る見込みだが、輸出金額は下半期の円安を反映して24年度比微増となる見込み。
EX 09 その他	18,068	+15.9%	9,622	+13.1%	10,081	+5.4%	19,703	+9.1%	↑ 20,340	+3.2%	科学光学機器は、米国関税措置による不確実性の緩和と円安の影響から、アジアや欧州向けの先端半導体関連などの需要がけん引し、増加に転じる見込み。年度全として、アジア向けが24年度と同程度の増加にとどまるものの、欧米向けは円安影響で24年度を上回り増加し、総じて輸出額では24年度から増加する見込み。金輸出は、国際価格の上昇を背景に数量・金額ともに増加。
科学光学機器	2,761	+7.8%	1,299	▲4.7%	1,614	+15.4%	2,913	+5.5%	↑ 3,038	+4.3%	下半期は、米国関税措置による不確実性の緩和と円安の影響から、アジアや欧州向けの先端半導体関連などの需要がけん引し、増加に転じる見込み。25年度全として、アジア向けが24年度と同程度の増加にとどまるものの、欧米向けは円安影響で24年度を上回り増加し、総じて輸出額では24年度から増加する見込み。

*2025年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「+」は前年度比増加(10%未満)、「↑」は増加(10%以上)、「-」は減少(10%未満)、「↓」は減少(10%以上)、「-」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。

2026年度わが国貿易収支、経常収支の見通し

商品別見通し(輸入)

品目	2024年度 (実績)		2025年度 (見込み)		2026年度 (見通し)		コメント			
			上半期 (実績)		下半期 (見込み)		伸び率%	伸び率%	10億円	伸び率%
		10億円	伸び率%	(見込み)	伸び率%	10億円	伸び率%	→	10億円	伸び率%
総額	114,291	+4.8%	54,887	▲3.4%	55,963	▲2.7%	110,850	▲3.0%	→ 110,186	▲0.6%
IM 01 食料品	10,044	+7.2%	5,214	+1.1%	4,504	▲7.8%	9,718	▲3.2%	↓ 9,233	▲5.0%
魚介類	1,885	+3.5%	952	+2.5%	931	▲2.6%	1,884	▲0.1%	↓ 1,852	▲1.7%
肉類	2,060	+10.3%	1,046	▲4.9%	959	▲0.1%	2,005	▲2.7%	→ 1,988	▲0.9%
IM 02 原料品	7,933	+9.0%	3,831	▲8.5%	3,717	▲0.8%	7,548	▲4.8%	↑ 7,784	+3.1%
鉄鉱石	1,656	▲1.8%	708	▲21.1%	720	▲5.0%	1,428	▲13.7%	↓ 1,338	▲6.3%
非鉄金属鉱	2,775	+9.8%	1,402	▲4.7%	1,327	+1.9%	2,729	▲1.6%	↑ 2,949	+8.1%
IM 03 鉱物性燃料	25,080	▲3.6%	10,237	▲17.9%	10,500	▲16.7%	20,737	▲17.3%	↓ 19,800	▲4.5%
原油及び粗油	10,650	▲5.7%	4,548	▲15.7%	4,267	▲18.8%	8,815	▲17.2%	↓↓ 7,861	▲10.8%
石油製品	2,970	+11.0%	1,186	▲20.0%	1,350	▲9.2%	2,536	▲14.6%	↑ 2,700	+6.5%
LNG	6,175	+2.1%	2,585	▲11.4%	3,008	▲7.6%	5,593	▲9.4%	↓ 5,191	▲7.2%
LPG	952	+11.0%	368	▲11.4%	429	▲20.1%	797	▲16.3%	↑ 816	+2.4%
石炭	4,284	▲15.8%	1,529	▲31.6%	1,427	▲30.4%	2,956	▲31.0%	↑ 3,178	+7.5%
IM 04 化学製品	12,191	+7.5%	6,026	▲1.5%	5,883	▲3.2%	11,909	▲2.3%	→ 12,018	+0.9%
IM 05 原料別製品	9,440	+5.5%	4,659	▲1.4%	5,285	+12.1%	9,944	+5.3%	↓ 9,541	▲4.1%
鉄鋼	1,352	+4.4%	608	▲12.7%	630	▲3.9%	1,238	▲8.5%	↑ 1,260	+1.8%
非鉄金属	2,652	+10.4%	1,384	+8.0%	1,703	+24.3%	3,088	+16.4%	↓ 2,859	▲7.4%
織物用糸・繊維製品	1,175	+2.7%	572	▲3.2%	575	▲1.5%	1,147	▲2.4%	↓ 1,132	▲1.3%
IM 06 一般機械	11,576	+18.9%	5,922	+7.1%	6,227	+3.0%	12,149	+4.9%	→ 12,149	▲0.0%
電算機類(含周辺機器)	3,496	+36.1%	1,942	+16.9%	2,101	+14.5%	4,043	+15.7%	↑ 4,111	+1.7%
IM 07 電気機器	18,242	+3.3%	8,792	+1.7%	9,800	+2.1%	18,592	+1.9%	↑ 19,500	+4.9%
半導体等電子部品	4,080	▲10.7%	2,028	▲1.9%	2,057	+2.2%	4,085	+0.1%	↑ 4,146	+1.5%
通信機	4,498	+17.1%	1,983	+4.2%	2,984	+15.0%	4,967	+10.4%	↑ 5,400	+8.7%
IM 08 輸送用機器	4,322	▲1.1%	2,325	+8.0%	2,330	+7.4%	4,655	+7.7%	↑ 4,724	+1.5%
自動車	1,926	▲0.8%	1,027	+6.7%	1,078	+11.9%	2,105	+9.3%	→ 2,123	+0.9%
航空機類	692	▲8.2%	387	+7.0%	468	+41.5%	855	+23.5%	↑ 900	+5.3%
IM 09 その他	15,465	+7.7%	7,881	+0.9%	7,717	+0.8%	15,598	+0.9%	↓ 15,438	▲1.0%
衣類・付属品	3,775	+5.6%	1,886	+1.7%	1,912	▲0.5%	3,798	+0.6%	↓ 3,758	▲1.1%

*2025年度上半期の実績は9桁速報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加(10%未満)、「↑」は増加(10%以上)、「↓」は減少(10%未満)、「↓」は減少(10%以上)、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。

*魚介類は貿易統計の概況品目「魚介類及び同調製品」、肉類は「肉類及び同調製品」を指す。

【参考資料】

2026年度わが国貿易収支、経常収支の見通し

～ 貿易収支が6年ぶりに黒字に転じる ～

2025年12月10日（水）発表
貿易動向調査委員会



一般社団法人 日本貿易会
Japan Foreign Trade Council, Inc.

日本貿易会 貿易見通しの特徴

- 日本貿易会 貿易動向調査委員会傘下の貿易見通し作成専門委員会に参加する**商社7社***が共同で見通しを作成
 - * 7社（社名五十音順）
伊藤忠商事(株)、住友商事(株)、双日(株)、豊田通商(株)、
丸紅(株)、三井物産(株)、三菱商事(株)
- 社内外へのヒアリングなどに基づく
「商品別積み上げ方式」 + 「マクロ的分析」
により作成
- 1974年から開始（2025年で52年目、延べ71回目）

今回の予測結果

貿易収支が2026年度に黒字に転じる。経常収支は史上最高額の更新が続く

1. 通関輸出は、2025年度が前年度比0.4%増の109兆円とほぼ横ばい、2026年度は同2.4%増の112兆円に増加。
 - 2025年度は、輸送用機器が減少するが、電気機器や一般機械がAI・データセンター関連の需要拡大を支えに増加する。
 - 2026年度は、輸送用機器がほぼ横ばいになる。
2. 通関輸入は、2025年度が前年度比3.0%減の111兆円に減少、2026年度は同0.6%減の110兆円とほぼ横ばい。
 - 2025年度は、鉱物性燃料が価格下落を主因に大きく減少するが、一般機械や電気機器はPCやスマホの増加が続くため増加する。
 - 2026年度は、鉱物性燃料の減少が続くが減少幅は縮小する。
3. 経常収支の黒字額は、2025年度が32兆円、2026年度は33兆円に拡大。
 - 2025年度は、貿易収支の赤字縮小を主因に経常収支の黒字額が史上最高を更新する。ただし、サービス収支は赤字拡大に転じる。
 - 2026年度は、貿易収支の黒字転化により経常収支の黒字額拡大が続く。

前提条件とした経済環境

	2024	2025	2026
世界貿易 (暦年)	2.8 %	3.3 %	2.1 %
世界経済 (暦年・実質)	3.3 %	3.1 %	3.0 %
米国	2.8 %	2.0 %	1.8 %
ユーロ圏	0.9 %	1.2 %	1.1 %
アジア新興国市場及び途上国・地域	5.3 %	5.1 %	4.7 %
日本経済 (年度・実質)	0.8 %	0.9 %	0.7 %

(注1) アジア新興国市場及び途上国・地域はIMF定義によるEmerging and Developing Asia。

(注2) 上記の前提条件に加え、11月中旬の外国為替市場および原油市場の動向を参考に、円相場は2025年度147円／ドル、2026年度144円／ドル。原油入着価格は2025年度69ドル／バレル、2026年度63ドル／バレルとの前提条件をおいて積み上げ作業を実施。

- 世界経済は、過去の平均に比べ低めの成長になるが、深刻なりセックションに陥ることはない。米国と中国が共に減速する。
- エネルギー価格は、原油を中心とする供給過剰のため、下落する。ドル円相場は緩やかな円高と想定。

今回見通しのポイント

① 米国の関税措置の影響

輸送用機器の輸出額が2025年度に減少。ただし、2026年度は下げ止まる。

② グローバルなエネルギー情勢の変化

エネルギー価格の下落により、鉱物性燃料の輸入額が減少。また、世界的にガス火力発電所の建設が活発化しており、一般機械に含まれる原動機の輸出額が増加。

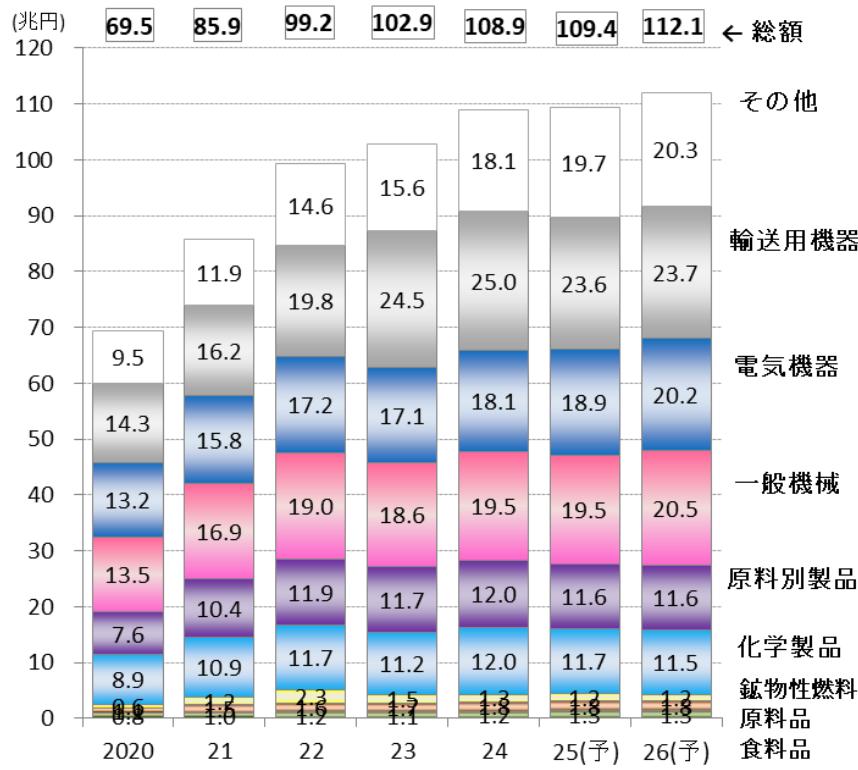
③ グローバルなAI・データセンター関連の需要拡大

電気機器に含まれる半導体等電子部品、一般機械に含まれる半導体等製造装置の輸出額が増加。

品目別輸出の見通し

- 2025年度 … 輸送用機器が減少するが、電気機器や一般機械はグローバルなAI・データセンター需要の拡大に伴い増加するため、輸出総額はほぼ横ばいを確保する。
- 2026年度 … 輸送用機器がほぼ横ばいになり、電気機器や一般機械の伸びが高まることで、輸出総額は6年連続の増加になる。

日本の品目別輸出（年度）



(主な具体的商品)	2024年度			
	シェア(%)	2024	25(予)	26(予)
輸出総額	100.0	5.9	0.4	2.4
食料品	1.1	9.4	7.2	2.3
原料品 (生ゴム、金属スクラップ)	1.6	7.2	2.9	▲ 0.3
鉱物性燃料	1.2	▲ 14.0	▲ 3.0	▲ 7.3
化学製品 (プラスチック、有機化合物、化粧品、医薬品)	11.0	7.3	▲ 2.6	▲ 1.7
原料別製品 (鉄鋼、非鉄金属、繊維製品、ガラス、タイヤ)	11.1	3.1	▲ 4.0	0.1
一般機械 (原動機、建設・鉱山機械、金属加工機械)	17.9	4.5	0.3	5.0
電気機器 (電子部品、電気計測機器)	16.6	5.8	4.7	6.6
輸送用機器 (自動車、自動車部品、船舶)	23.0	2.1	▲ 5.4	0.2
その他 (科学光学機器)	16.6	15.9	9.1	3.2

品目別輸入の見通し

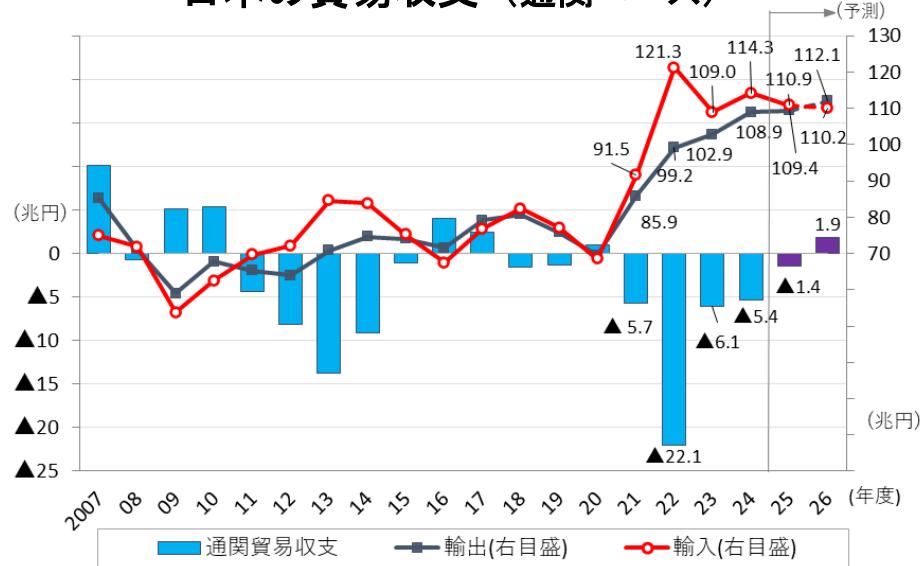
- 2025年度 … 鉱物性燃料が価格下落を主因に大きく減少するため、輸入総額も減少に転じる。PCやスマートフォンの増加が続き、一般機械や電気機器は増加する。
- 2026年度 … 鉱物性燃料の減少が続くが減少幅は縮小するため、輸入総額の減少幅も縮小してほぼ横ばいになる。



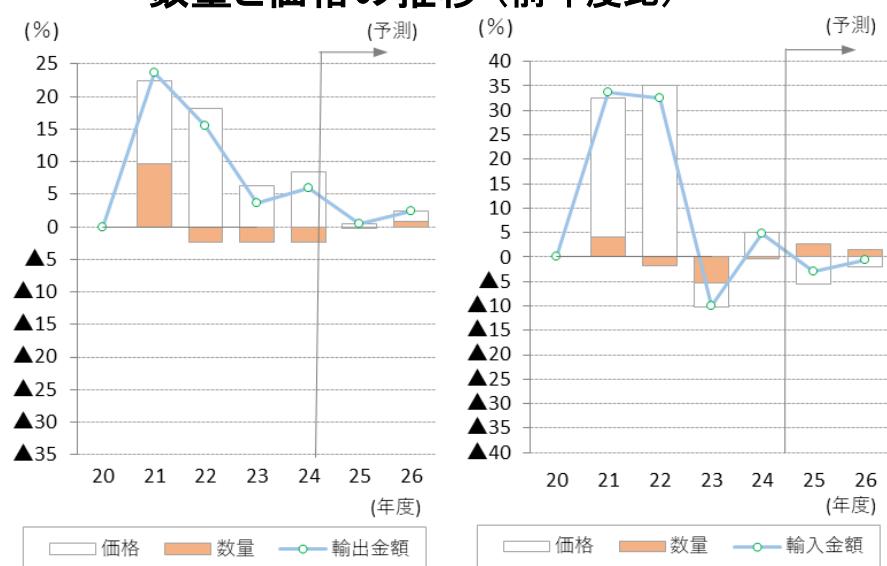
(主な具体的商品)	2024年度 シェア(%)	前年度比増減率(%)		
		2024	25(予)	26(予)
輸入総額	100.0	4.8	▲ 3.0	▲ 0.6
食料品	8.8	7.2	▲ 3.2	▲ 5.0
原料品 (鉄鉱石、非鉄金属鉱)	6.9	9.0	▲ 4.8	3.1
鉱物性燃料 (原油、LNG、石炭)	21.9	▲ 3.6	▲ 17.3	▲ 4.5
化学製品 (医薬品、有機化合物)	10.7	7.5	▲ 2.3	0.9
原料別製品 (非鉄金属、鉄鋼、繊維製品、ガラス)	8.3	5.5	5.3	▲ 4.1
一般機械 (コンピュータ・周辺機器)	10.1	18.9	4.9	▲ 0.0
電気機器 (通信機、電子部品)	16.0	3.3	1.9	4.9
輸送用機器 (自動車、航空機)	3.8	▲ 1.1	7.7	1.5
その他 (衣類、科学光学機器)	13.5	7.7	0.9	▲ 1.0

通関貿易収支の見通し

日本の貿易収支（通関ベース）



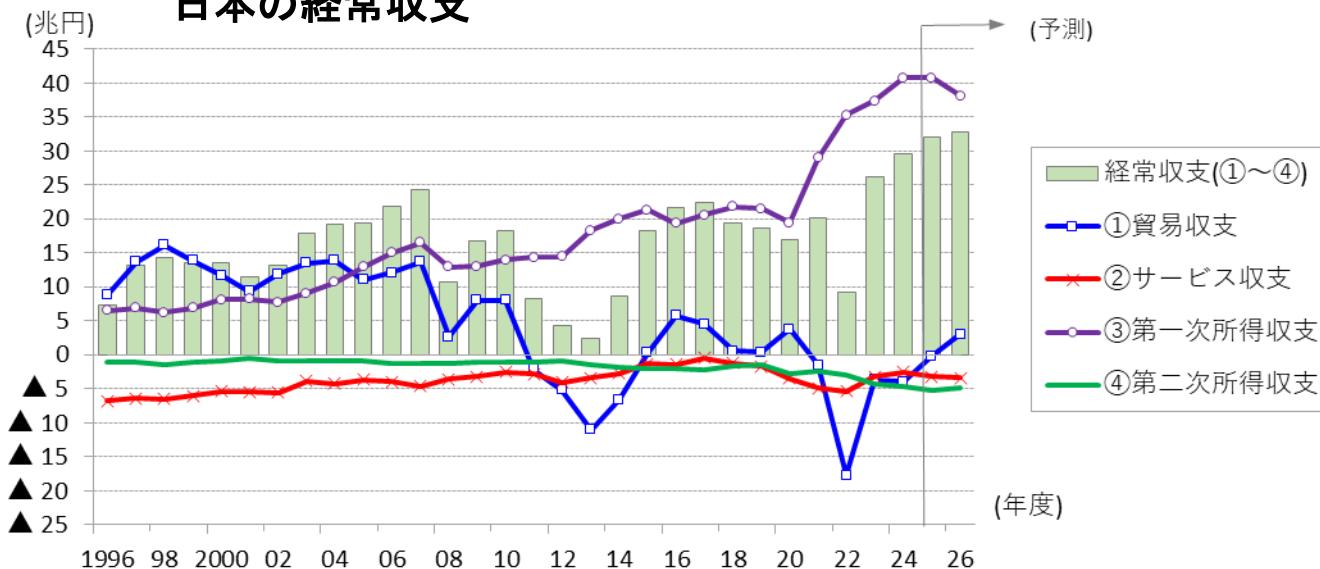
数量と価格の推移（前年度比）



	2024年度 実績		2025年度 見込み		2026年度 見通し	
	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)
通関貿易収支	▲ 5,352	+791	▲ 1,421	+3,930	1,896	+3,318
輸 出	108,939	(5.9%)	109,429	(0.4%)	112,083	(2.4%)
数量要因		-2.4%		0.0%		0.8%
価格要因		8.5%		0.4%		1.6%
輸 入	114,291	(4.8%)	110,850	(-3.0%)	110,186	(-0.6%)
数量要因		-0.3%		2.8%		1.5%
価格要因		5.0%		-5.6%		-2.1%

経常収支の見通し

日本の経常収支



(注1)第一次所得収支は、直接投資収益や証券投資収益など、対外債権・債務から生じる利子・配当金の収支。

第二次所得収支は、官民の無償資金協力、寄付、贈与、賠償金などの収支。

(注2)国際収支統計上の貿易収支の改善や悪化は、通関貿易統計と概ね連動するが、輸入の定義の違い(運賃や保険料を控除)などにより収支の水準が異なる。

	2024年度 実績		2025年度 見込み		2026年度 見通し	
	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)
貿易・サービス収支						
貿易収支	▲ 6,575	+342	▲ 3,444	+3,131	▲ 418	+3,027
輸出	▲ 4,013	-326	▲ 205	+3,808	3,025	+3,230
輸入	106,270	(4.1%)	106,783	(0.5%)	109,372	(2.4%)
サービス収支	110,283	(4.3%)	106,988	(-3.0%)	106,347	(-0.6%)
第一次所得収支	40,826	+3,448	40,796	-29	38,104	-2,693
第二次所得収支	▲ 4,701	-446	▲ 5,230	-529	▲ 4,841	+389
経常収支	29,549	+3,344	32,122	+2,572	32,845	+723

(補足)

輸出 品目別増減

品目	2024 年 度 (実 績)		2025 年 度 (見 込 み)				2026 年 度 見 通 し	
			上半期 (実 績)		下半期 (見 込 み)			
	10億円	伸び率%	(実 績)	伸び率%	(見 込 み)	伸び率%	10億円	伸び率%
総 額	108,939	+5.9%	53,653	+0.2%	55,776	+0.7%	109,429	+0.4%
EX 01 食料品	1,231	+9.4%	675	+18.2%	645	▲2.4%	1,320	+7.2%
EX 02 原料品	1,781	+7.2%	909	+3.2%	924	+2.6%	1,833	+2.9%
EX 03 鉱物性燃料	1,279	▲14.0%	540	▲8.0%	700	+1.3%	1,240	▲3.0%
EX 04 化学製品	11,998	+7.3%	5,778	▲3.2%	5,906	▲2.0%	11,684	▲2.6%
EX 05 原料別製品	12,039	+3.1%	5,782	▲6.2%	5,773	▲1.7%	11,555	▲4.0%
鉄鋼	4,342	▲3.7%	1,918	▲15.1%	1,905	▲8.5%	3,823	▲12.0%
非鉄金属	2,747	+11.3%	1,397	▲1.3%	1,390	+4.5%	2,788	+1.5%
織物用糸・繊維製品	850	+6.0%	417	▲0.9%	431	0.2%	847	▲0.3%
EX 06 一般機械	19,475	+4.5%	9,631	+1.3%	9,900	▲0.6%	19,531	+0.3%
原動機	2,954	+0.4%	1,483	+2.6%	1,550	+2.8%	3,033	+2.7%
半導体等製造装置	4,642	+27.0%	2,178	▲2.2%	2,548	+5.5%	4,726	+1.8%
EX 07 電気機器	18,068	+5.8%	9,140	+0.9%	9,782	+8.5%	18,922	+4.7%
半導体等電子部品	6,154	+9.8%	3,248	+4.2%	3,363	+10.7%	6,611	+7.4%
電気計測機器	2,035	+6.8%	1,014	+1.7%	1,033	▲0.4%	2,048	+0.6%
EX 08 輸送用機器	25,002	+2.1%	11,575	▲5.9%	12,067	▲5.0%	23,641	▲5.4%
自動車	18,326	+2.5%	8,376	▲6.7%	8,835	▲5.5%	17,211	▲6.1%
自動車の部分品	3,938	▲2.4%	1,820	▲9.1%	1,877	▲3.0%	3,697	▲6.1%
船舶	1,558	+11.8%	768	▲0.1%	809	+2.6%	1,577	+1.3%
EX 09 その他	18,068	+15.9%	9,622	+13.1%	10,081	+5.4%	19,703	+9.1%
科学光学機器	2,761	+7.8%	1,299	▲4.7%	1,614	+15.4%	2,913	+5.5%

*2025年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加(10%未満)、「↑↑」は増加(10%以上)、「↓」は減少(10%未満)、「↓↓」は減少(10%以上)、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。

輸入 品目別増減

品目	2024年度 (実績)		2025年度 (見込み)				2026年度 (見通し)	
			上半期		下半期			
	10億円	伸び率%	(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%	10億円	伸び率%
総額	114,291	+4.8%	54,887	▲3.4%	55,963	▲2.7%	110,850	▲3.0%
IM 01 食料品	10,044	+7.2%	5,214	+1.1%	4,504	▲7.8%	9,718	▲3.2%
	魚介類	+3.5%	952	+2.5%	931	▲2.6%	1,884	▲0.1%
	肉類	+10.3%	1,046	▲4.9%	959	▲0.1%	2,005	▲2.7%
IM 02 原料品	7,933	+9.0%	3,831	▲8.5%	3,717	▲0.8%	7,548	▲4.8%
	鉄鉱石	▲1.8%	708	▲21.1%	720	▲5.0%	1,428	▲13.7%
	非鉄金属鉱	+9.8%	1,402	▲4.7%	1,327	+1.9%	2,729	▲1.6%
IM 03 鉱物性燃料	25,080	▲3.6%	10,237	▲17.9%	10,500	▲16.7%	20,737	▲17.3%
	原油及び粗油	▲5.7%	4,548	▲15.7%	4,267	▲18.8%	8,815	▲17.2%
	石油製品	+11.0%	1,186	▲20.0%	1,350	▲9.2%	2,536	▲14.6%
	LNG	+2.1%	2,585	▲11.4%	3,008	▲7.6%	5,593	▲9.4%
	LPG	+11.0%	368	▲11.4%	429	▲20.1%	797	▲16.3%
	石炭	▲15.8%	1,529	▲31.6%	1,427	▲30.4%	2,956	▲31.0%
IM 04 化学製品	12,191	+7.5%	6,026	▲1.5%	5,883	▲3.2%	11,909	▲2.3%
IM 05 原料別製品	9,440	+5.5%	4,659	▲1.4%	5,285	+12.1%	9,944	+5.3%
IM 06 一般機械	1,352	+4.4%	608	▲12.7%	630	▲3.9%	1,238	▲8.5%
	電算機類(含周辺機器)	+36.1%	1,942	+16.9%	2,101	+14.5%	4,043	+15.7%
IM 07 電気機器	18,242	+3.3%	8,792	+1.7%	9,800	+2.1%	18,592	+1.9%
	半導体等電子部品	▲10.7%	2,028	▲1.9%	2,057	+2.2%	4,085	+0.1%
	通信機	+17.1%	1,983	+4.2%	2,984	+15.0%	4,967	+10.4%
IM 08 輸送用機器	4,322	▲1.1%	2,325	+8.0%	2,330	+7.4%	4,655	+7.7%
	自動車	▲0.8%	1,027	+6.7%	1,078	+11.9%	2,105	+9.3%
	航空機類	▲8.2%	387	+7.0%	468	+41.5%	855	+23.5%
IM 09 その他	15,465	+7.7%	7,881	+0.9%	7,717	+0.8%	15,598	+0.9%
	衣類・同付属品	+5.6%	1,886	+1.7%	1,912	▲0.5%	3,798	+0.6%

*2025年度上半期の実績は9桁速報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加(10%未満)、「↑↑」は増加(10%以上)、「↓」は減少(10%未満)、「↓↓」は減少(10%以上)、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。

*魚介類は貿易統計の概況品目「魚介類及び同調製品」、肉類は「肉類及び同調製品」を指す。

「通関貿易収支」と経常収支の「貿易収支」の違い

- **「通關貿易収支」：通關ベース**

モノの貿易に特化して商品別に細かく分析しているため、**国や企業の経済活動状況や景況感がわかる**

- **「貿易収支」：決済ベース**

国際的な資金の流れとして貿易収支を分析しているため、**諸外国との財貨・サービス・カネの動きがわかる**

